

町の水資源活用を (小水力発電を行政に)

石内 國雄 議員



Q 県央水質浄化センター処理後の水を、町の水資源と認識した行政を考えたよ。

水が流れたところには継続的で安定した小水力発電が可能である。施設の電力、災害時における安定した電力を持てる。玉村町を流れている水・浄化センターで

つくり出される水、この水エネルギー資源を利用した行政で、町の発展を。

A 町長 処理水を三次処理まで行えば、町の水資源として大きな財産になる。この水をどう玉村町が利用するのが重要と考えている。小水力発電は、ただの水を使って電力をつくっており、町としては検討せざるを得ないと思う。また、滝川の水を利用することも考えられる。脱原発もあり、太陽光・小水力発電を二本の柱として進めていく必要があると思う。

Q 急激な負担増を回避するため、保育料の

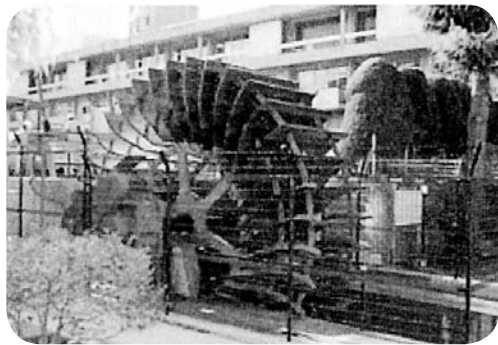
基準額見直しの条例改正を年内に行うべきでは。

A 町長 保育料に影響する区分を十分に検証・検討し、条例改正を含めた作業を進めたい。

Q 選挙時の入場券裏面に「期日前投票宣誓書」を印刷し、投票率の向上・手続事務の簡素化を図れ。

A 選挙管理委員会書記長 正確な事前記入で、当日の記入省略と時間短縮も図れる。宣誓書が小さくなる等の問題もあるため、今後検討を行い、改善していきたい。

Q 選挙管理委員会書記長 正確な事前記入で、当日の記入省略と時間短縮も図れる。宣誓書が小さくなる等の問題もあるため、今後検討を行い、改善していきたい。



動力水車 (下掛け水車)

出典：マイクロ水力発電導入ガイドブック

小中学校の二学期制 このままでよいのか

笠原 則孝 議員



Q 玉村町は、このまま二学期制でよいのか。

運動会が9月の残暑厳しい折に行われるなど、心配な面もあるが。

A 教育長 平成18年度から二学期制を導入したが、現在では高崎市と玉村町のみとなっている。6年目を迎え、軌道に乗っ

できたところであり、子どもにとつてよかつたと思える二学期制となるよう、これからも調査研究を進めたい。運動会については学校ごとに企画しているが、子どもや地域の実態を踏まえて計画することが大事であると考えます。

Q 老人福祉センターの送迎用マイクロバスが廃止された理由は。

A 町長 平日に行っている地区ごとの送迎は、通常どおり実施している。芸能発表会等における送迎については、乗り合わせ等により参加していただいている。今後は、誤解を招かないような周知を行う。

Q クリーンセンター長 寿命化工事の交付金は、震災の影響で大幅に減額された。差額は約1億4200万円である。来年度は交付されるのか。

A 町長 今年度の内示額は7016万円で、事業費の3分の1となった。クリーンセンターは20年以上経過しており、安定的なごみ処理を行うためには、交付金の有無に関わらず大規模な改修工事を行う必要がある。来年度の交付金が減額された場合は、起債や財政調整基金の充当などにより財源確保を行い、平成24年度末までに事業を完了したい。



南中学校運動会

3期目に向けて、課題と抱負を聞く

柳沢 浩一 議員



Q 町長選への3期目出馬を表明したが、新たな決意と何をやりたのかを改めて聞かせてほしい。

A 町長 まず、冷え込んでいる町経済が少しでも上昇に転じるよう、いろいろな角度から行政として支援していきたい。

Q 経済の活性化は国家的な課題であり、当然なことだ。これが3期目への主要な政策課題とすれば、極めて心もとない。

A 町長 今までトクトク商品券の発売、住宅リフォーム支援事業など、一定の成果を上げたと考えている。玉村町の将来の指針、目標となる第5次総合計画に沿ったまちづくりを進めることが使命と考えている。

Q 8月28日の全員協議会において、今日まで思いを持ちながら控えてきた前橋赤十字病院の誘致

に真剣に取り組みと表明したが、決意を聞きたい。

A 町長 いよいよそのときが来たものと考えている。しかし、地域・地元のデリケートな感情も複雑な状況にあり、誘致成功の可能性は極めて少ないと認識している。町民の皆様への期待も大きく、当町にこそ、必要な条件を満たすことのできる場所があると思っている。

議会をはじめ、町民の皆様、関係各位のご協力を心よりお願いしたい。



トクトク商品券

玉村町の花火大会は 今後もできるか

石川 眞男 議員



Q 夏の華としての花火大会は、東毛広域幹線道路開通後も継続できるか。

A 町長 県外PRの拡充をはじめ、駐車場や会場までの公共交通整備などの受け入れ態勢を構築したので、例年になく集客ができた。

23回も継続できた田園地帯での花火大会を町の観光資源として今後も継続できるように、全町民の強い意思であることも強調しながら、警察・消防・伊勢崎土木事務所などの関係機関と調整を図っていきたい。

Q 節電対策の一環として、2000年の「電力自由化」の流れで生まれた特定規模電気事業者（PSS）の選定をする計画はあるか。

A 町長 契約電力が50キロワット以上の需要家に対し、東電の電線を通して電力供給を行う事業者のことであり、全国で45業者が登録され、玉村町の入札業者には2業者が登録している。

群馬県庁のいくつかの施設でもPPSとの契約をしている。町でもPPSを交えて入札できるか検討したい。

Q 自治体交流も多くなる今後も見据え、映像として町をアピールできるプロモーションビデオを制作する計画はあるか。

A 町長 第5次総合計画に「観光による地域振興」を盛り込むなど、町外からの来訪者の確保を目指している。

今後、東毛広域幹線道路などの全線開通もあり、観光・産業振興に有効な手段であると考えられる。



夜空を彩るたまむら田園夢花火